

Ⅱ 与那覇湾漁業資源生態調査報告

はじめに

本報告書は沖縄総合事務局農林水産部の委託によって沖縄県水産試験場が昭和50年度においておこなった与那覇湾およびその隣接海域の漁場環境と資源生態調査の結果をとりまとめたものである。詳しいことは沖縄水試資料No.17で報告したのでここではその概略を報告する。

調査の結果、当海域における漁業生産及び資源再生産のしくみについて、若干明らかにすることができた。例えば、湾外に大量に生息するクチベニツキガイやクルマエビ類の資源は与那覇湾の存在と無関係でないことが証されつつあることもその一つである。

漁業資源再生産のしくみを明らかにし、何らかの積極的な手段を加えることによって沿岸漁場の持つ生産力を助長する。いわゆる栽培漁業を導入し、沿岸漁場における漁業生産を飛躍的に発展させなければならない時代となっている。しかし、我々は今、本県沿岸漁場に導入できる技法を充分持ち合わせていない。

このような技術を早急に確立することが我々の努めであり、願いである。

本報告をするに際し、平良市漁協職員の方々、および、宮古支庁水産関係職員の方々には、調査に終始ご協力いただいたことを記し、深く謝意を表します。

1 調査概要

(1) 調査地域の概要

与那覇湾は宮古島の南西部に位置し、総面積約680haで、宮古島最大の湾である。干潮時には約700haの広大な干潟を形成し、県下でも例をみない内湾度の高い水域である。

(2) 調査年月日 昭和50年5月～51年4月

(3) 調査項目

- | | | |
|------------|----------|---------------|
| 1) 与那覇湾の地形 | 2) 水質と底質 | 3) 藻場の分布と食用海藻 |
| 4) プランクトン | 5) 卵 稚 仔 | 6) 漁 獲 物 |
| 7) 底生々物 | 8) 有用貝類 | |

(4) 調査担当者(順不同)

伊野波 盛 仁 、 当 真 武 、 田 場 典 秀
川 崎 和 男 、 喜 屋 武 敏 彦 、 上 原 孝 喜

2 調査結果の要約

(1) 与那覇湾の地形

与那覇湾は冬期の北東季節風及び夏期の台風の影響が小さい、静穏な広い水面を有している。大部分が干潟を形成していて、しかもそのレベルは高いため、干潮時の湾内における遊泳生物の

現存量は少ない。しかし満潮時にはボラ等の群泳が数多くみられた。

(2) 水質と底質

与那覇湾は降雨や陸水等の影響を受けやすく、理化学的に不安定であり、かつ富栄養化され、特に湾奥部がそうである。

(3) 藻場の分布と食用海藻

アジモ場の規模は大きく県内でも有数である。植物生育現存量は湾内より湾外に多く、オキナワモズクも湾外に多産し、アジモの分布域と重なっている。またクビレツタは湾内の水路の周辺のみ分布する。

(4) プランクトン

動物プランクトンでは、CopepodaのAcartia spとOithona spが多く、湾内ではフジツボ、カニ類、エビ類等の幼生が多い。出現時期では4～10月に多く、湾内と湾外では湾内の方が多い。また当湾内はエビ類、カニ類幼生の生育場としての役割が大である。

(5) 卵 稚 仔

隣接海域を含めた当該湾は稚仔魚に対する成育場所としての役割が大きく、また産卵場ともなっている。年間最多出現種は、稚仔魚でトウゴロイワシ科、卵ではブダイ科である。

(6) 漁 獲 物

周年多獲される有用魚はアイゴを筆頭に以下フエフキダイ類、ヒメジ類、アジ類、ニザダイ類、他にアオリイカ、ガザミ類である。また湾内で魚獲される主要種は、アイゴ類、ボラ類、サヨリ類、クロダイ類、アオリイカ、ガザミ類である。

(7) 底生生物

湾奥部の生物相は貧弱で、湾中央部と口部は豊富である。全体としての当該水域は他の海域（中城湾、金城湾、羽地湾等）に比較して曳網単位面積当りの小型生物相は豊富であり、“餌料環境”及び“かくれば”として重要である。

(8) 有用貝類

松原地先の干潟にクチベニツキガイとウラキツキガイが多産し、規模は300ha、生息密度200g/m²、総資源量600トンと試算された。

3 結 論

- (1) 与那覇湾は静かな内湾を形成していて、安定した漁場であるが干潟よりなるため、本島の他の内湾例えば中城湾や羽地内海のような活発な漁業生産の場とはなり得ていないようである。
- (2) 湾内には藻場や有用底生々物は少ないが湾口部から湾外にかけては大規模なアジモ場とクチベニツキガイの生育量があり、またクルマエビ類の好漁場となっている。これは、栄養塩類及び餌料が与那覇湾によって供給されることが栄養塩およびプランクトンの調査から推定される。
- (3) 卵稚仔及びプランクトンの調査から、餌料プランクトンの他、有用動物の幼生が湾内で多くみ

られ、これらの産卵場および生育場としての役割が大きく、またこのことによって県下では大規模な二枚貝及びエビ類の好漁場が形成されているように推定される。

- (4) 漁獲物の調査から湾内ではアイゴ、ボラ、サヨリ、クロダイ、アオリイカ、ガザミが多く漁獲されていることが確かめられた。これらの結果は卵稚仔及びプランクトンの調査結果と一致した。
- (5) 湾奥の水路周辺にはクビレヅタが多く生育する。本種は県下では西表島大原で採集されたのを除いて他の内湾ではまだ確認されていないものであり、有用藻類資源としてユニークな位置をしめる。
- (6) 湾外のアジモ場とその周辺部はオキナワモズクの代表的な産地の一つである。